

女川原発再稼働反対のとりくみ

はじめに 立地町 女川町の現状 1

2015年11月20日～21日
災害対策全国交流集会
第4分科会 報告 高野 博

<女川町長>2期目 原発再稼働迫られる決断

東北電力が再稼働を目指す女川原発

東北電力女川原発(宮城県女川町、石巻市)が立地する女川町で13日、須田善明町長と町議12人の新たな任期がスタートした。10月16日告示の町長選と町議選はともに無投票で、原発再稼働について主張を戦わせる機会がなかった。東北電は2017年4月以降の再稼働を見込んでおり、任期中に是非の判断を迫られる可能性が高い。決断は町の将来に大きな影響を及ぼす。

須田町長は無投票再選が決まった10月16日、報道各社の取材に「東北電が想定するスケジュールはあるのだろうが、私は規制庁に対し厳しい安全審査を要請してきた。その姿勢は今も変わらない」と持論を強調。再稼働の是非については明言しなかった。

町は女川原発の重大事故に備え、広域避難計画の策定を進めている。「事故時は避難ルートなどの速やかな検討が重要」(町企画課)として、緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム(SPEEDI)を活用する仕組みの構築も国に求める方針だ。

町議選では12人のうち3人が再稼働反対や脱原発を公約に掲げた。一部は原発存続の是非を問う住民投票の実施を町に求めている。

改選前の7月、町議会原発対策特別委員会は鹿児島県薩摩川内市を視察。避難計画や九州電力川内原発の防災対策などを調べた。

視察では、市が避難訓練を実施せずに避難経路を指定したケースを確認。川内原発と東京電力福島第1原発との原子炉型の違いを強調する説明も耳にした。特別委は「過酷事故が起きた場合のことを真剣に考えていないようだった」との報告書をまとめた。

ベテラン町議は「女川原発は地域と共存共栄してきたが、福島の事故もあり町内には原発に対するさまざまな意見がある。町議一人一人が慎重を期して再稼働に同意するか否かを判断する必要がある」と語る。 (河北新報 2015年11月14日土曜日)

立地町・女川町の現状2

＜女川原発＞再稼働 町民の是非揺れる

東北電力女川原発の再稼働の是非をめぐり、女川町民の判断が揺れている。雇用や町の財政を支えてきた発電所との共存を容認する声がある一方、東京電力福島第1原発事故を踏まえ「命が最優先」と決別を求める向きがある。九州や四国で再稼働への同意が相次ぐ中、三陸の港町の民意が重みを増している。

女川原発は東日本大震災で被災し、今も冷温停止中だが、東北電社員や協力企業従業員ら2000人以上が働く。1号機は1984年、2号機は95年、3号機は2002年に営業運転を始めた。

町中心部に住む70代男性は2、3号機の建設に左官として携わった。「作業は過酷だったが、給料は高かった」と振り返り、「原発は国のエネルギー政策を支えてきた。電力を安定的に供給するには再稼働はやむを得ない」と語る。

10月末現在の町人口は6911で震災当時より3割減った。単独町制を続ける町にとって、原発関連の収入は貴重だ。電源3法交付金は14年度、約8億円が交付された。使い道は医師や看護師の人件費補助やごみ収集、町役場庁舎建設など多岐にわたる。

原発の近くで生活する高齢男性は「原発関連の税金などで地域の道路が整備され、子どもがバス通学できるようになった」と恩恵を強調する。男性は幼少時、船で通学していたという。

東北電はことしに入り、1～3号機で震災後の設備点検記録に約4700件の不備があったと公表した。半径5キロ圏で暮らす男性は「東北電は福島の事故を対岸の火事と考えているのだろう」と不信の念を抱く。

2号機について東北電は、17年4月以降の再稼働を目指す。町の行政区長の一人は「町内の再稼働の賛否は割れている。住民の多くは原発は危険だと認識している」と打ち明ける。

70代女性は町内にあった原発作業員の宿舎に約10年間勤め、作業員の料理を作っていた。「原発に対する思い入れはあるが、再稼働してほしいとは言えない。命には替えられない。(原発事故が起きた福島の状況は)明日はわが身」と再稼働には慎重な判断を求める。

(河北新報 2015年11月14日土曜日)

2012年、再稼働反対の署名活動



2012年年4月から1年近くかけ、女川町ではすべての仮設の住民をはじめ、各家庭を訪問し、宮城県知事あての「女川原発再稼働反対」の署名活動を行いました。4回にわたる全県からの支援も受けて、2533筆の賛同をいただきました。知事に提出する前、女川町長にこの町民の思いを伝え、県当局に届けました。2015年12月現在、全県で12万筆を超えています。

2014年8月10日 1500人で 女川から未来を考える集い

女川から未来を考えるつどい
加藤登紀子トーク&ライブwith小出裕章

女川で会いましょう



8.10(日) 女川町総合体育館

出演: 加藤登紀子, 小出裕章(東東北) チケット: 1,000円 (注: 税別) 1,500円 (注: 税別) 1,700円 (注: 税別)



加藤登紀子さん、小出裕章
さんを迎えて

「女川から未来を考えるつどい実行委員会

数多くの女川町民も参加してくださいました。
実行委員会の皆さんの取り組みに敬意と感謝です。
あのどしゃ降りの雨の中、全県から、全国から
1500人の参加で大きな成功でした。意見発表
など、内容も素晴らしものになりました。



復興の在り方住民が発表
東日本大震災からの復興の在り方について問い掛ける「女川から未来を考えるつどい」(実行委員会主催)が10日、女川町総合体育館であり、県内外から約1500人が参加した。

地元住民ら9人はリレートークで地域の将来に向けた意見を発表。津波到達点より高い場所に石碑を建てる「いのちの石碑プロジェクト」を、女川中時代に進めた常盤末学園高1年の神田七海さん(16)は「避難の大切さを伝え地域の未来について熱い思いを

発表する住民の

県内外1500人参加し「考えるつどい」

石碑の意義も引き継いでいかなければいけない」と訴えた。

京都大厚学・炉実験所の小出裕章助教は講演で東京電力福島第一原発事故による放射性物質の影響などを解説。東北電力女川原発を抱える地域の現状を踏まえ「原発立地による財源に依存しないまちづくりこそ、女川の復興につながる」と強調した。

歌手の加藤登紀子さんは「ひとり寝の千守唄」などを熱唱し、「子どもたちの笑顔があれば、どんなにつらいことも乗り越えられる」とエールを送った。

夢を

女川から

未来を

2014年10月から11月 再稼働を問う住民アンケート その1



本当に感謝です。
3人で実施できたこと、675名の方がご協力してくださったこと、マスコミもきちんと報道してくださったこと、どれもみな感謝です。

2015年12月26日知事に結果を報告し、県当局が自ら、住民の意向調査を実施するよう要請しました。そのことを仙台の記者クラブで記者会見しました。

2014年10月から11月 再稼働を問う住民アンケート その2



2014年12月4日
女川町長に、アンケート結果を報告し、住民の意向調査を行うことを求めました。

11月30日までに675通の回答がありました アンケートのご協力ありがとうございました

1、2440世帯に配布し、11月30日まで675通の回答が届きました。

今回のアンケート調査では、女川町内および石巻市内仮設住宅のほぼ全世帯に当たる2440世帯に回答用紙と返信用封筒をお届けし、11月30日まで675通の回答が届きました。また、247件の女川原発再稼働に関するご意見が寄せられました。

2、女川原発2号機の再稼働に関する賛否の回答は、以下のようになりました。

反対が約6割 賛成の3倍に

女川原発再稼働について



賛成・・・	135 (20.00%)
反対・・・	396 (58.67%)
わからない・両方〇含め	144 (21.33%)

反対の人が挙げた理由は、多い順に（複数回答）

- ① 福島のような事故が心配。放射線の恐ろしさが身に染みた・・・425 (62.96%)
- ② お金よりも、命の方が大切だから・・・314 (46.52%)
- ③ 事故が起きたら、復興の努力が水の泡になるから・・・299 (18.55%)

賛成の人が挙げた理由は、多い順に（複数回答）

- ① 女川町は原発がないとやっていけないと思うから・・・171 (25.33%)
- ② 規制委員会が「合格」とした場合、再稼働に賛成する・・・124 (18.37%)
- ④ 電気料金が高くなると思うから・・・123 (18.22%)

3、政府は「規制委員会の新基準をクリアした原発は再稼働させる」という方針ですが、新基準をどのように考えていますか。（複数回答）

- 評価できるので、新基準で再稼働の可否を判断しても良い・・・112 (16.59%)
 不十分なので、たとえ新基準に適合しても、再稼働すべきではない・・・176 (26.07%)
 本質的に危険なので、原発は再稼働すべきではない・・・331 (49.04%)
 わからない、無記入・・・100 (14.81%)

4、この結果を12月4日に女川町長に、25日には村井県知事に報告し、住民（県民）の意向調査を実施されるよう申し入れました。

ご意見ご感想をお寄せください 2015年1月11日 (日)

高野 博 (53-3614) 阿部律子 (54-2562) 阿部美紀子 (53-3333) へ

学習活動に力を入れて その1



2014年12月6日

新潟県元巻町の町長 笹口さんの講演。住民投票について。



2015年2月28日

いわき市の伊東達也さんから福島の状態の生々しいお話を伺いました。



女川町民約70人、福島三春の滝桜を觀賞し、原発被災地を視察。立ち入り禁止の現場を見て、声も出ませんでした。

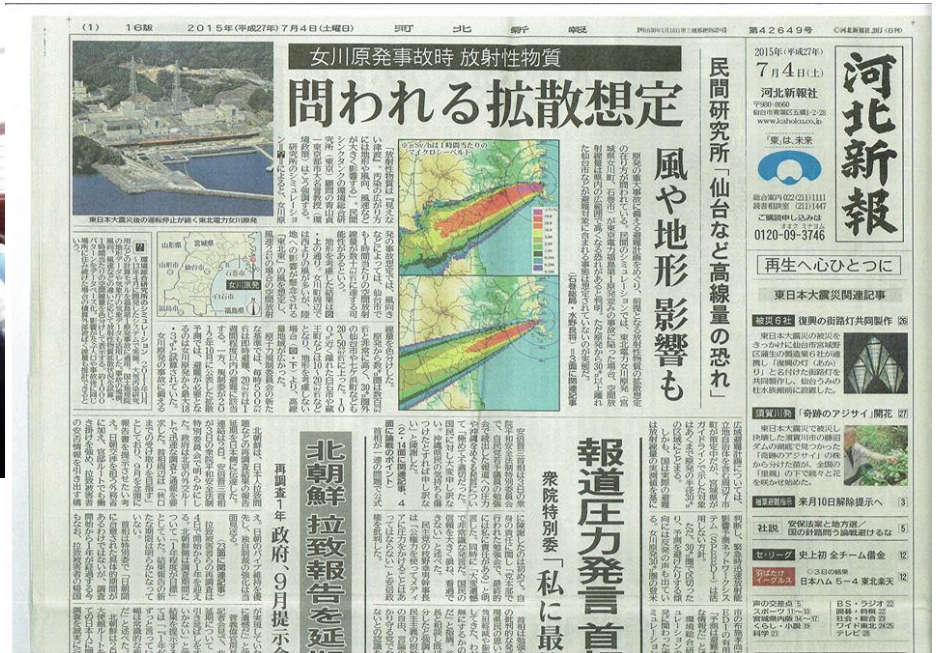


2015年4月19日

学習活動に力を入れて その2



2015年7月4日 170名の参加で



避難計画を考える講演会。河北新報も一面で

立地町民は帰還できるでしょうか。宮城の故郷は、風向きによってはどこも放射線の高線量汚染地域になるということがわかりました。原発が廃炉になったら、女川はやっていけるのか、仕事は続けられるのか？この疑問にこたえ、学習しました。

2015年9月13日



藤野保史衆議院議員の講演

女川原発、いまでもトラブル続く

女川1号機2度停電

先月下旬 非常用発電機で代替

東北電力は14日、東北電力女川原子力発電所1号機（宮城県女川町、石巻市）で9月下旬、外部電源が失われ非常用発電機が作動するトラブルが立て続けに2度発生したと発表した。

東北電によると、9月29日午後2時40分ごろ、外部電源を保護する装置の通電試験で、遮断器を接続する際に作業担当者が必要な手順を言いたため、別の遮断器が作動し停電。使用済み核燃料プールを冷やすポンプも一時停止し、非常用発電機で代替した。

30日午前1時半ごろ、非常用電源から復旧したが外部電源に切り替えることができず、現場への指示不徹底で再び外部電源が止まった。

電源が完全復旧したのは、最初の停電発生から約30時間後の30日午後8時50分ごろだった。プールの水分を減らした。

東北電の大平一樹原子力部課長は「2度も停電を起こしてしまい深く反省をしています。安全確保に万全を期していきたい」と語った。

「早く連絡を」地元非難

東北電力女川原発1号機（宮城県女川町、石巻市）の外部電源が2日間にわたって停電したことが明らかになった13日、立地自治体や周辺自治体からは、安全対策の徹底や迅速な情報伝達を求める声が上がった。

女川町は発生当日に東北電から連絡を受けた。担当者は「安全措置が欠落した

日に連絡したが「法令で報告が義務付けられているトラブルではない」として13日までに公表しなかった。

4月に東北電と安全協定を結んだ女川原発30ヶ圏内の登米市や美里町など5市町への連絡も13日になっただけで、美里町の担当者は「東北電が情報を隠せば町は何もできない。迅速な情報提供を期待する」と話し



女川原発の施設
東北電力が4日、東北女川原発（宮城県女川町、石巻市）2号機の設備点検で、点検記録の不備が4188件あったと発表した。

女川原発 点検記録不備4188件 存在しない部位も「済み」

同、鳥機の前記記録。規制委員会が昨年10月をめぐっては、原子力未管理が不備だったと認められ、ましてと評価されています。再稼働に向けた申請を、4000件以上の不備を指摘された。経済産業省原子力安全・保安院、高野博女川町議の話。福島第一原発事故をめぐって、定期検査のやり方について、安全管理をどうすべきか、最も重要視している。

再稼働など言語道断だ

日本共産党、高野博女川町議の話。福島第一原発事故をめぐって、定期検査のやり方について、安全管理をどうすべきか、最も重要視している。

点検記録の不備が4188件あり、存在しない部位も「済み」として記録された。これは、昨年10月に規制委員会が指摘した4000件以上の不備を上回る。規制委員会は、再稼働に向けた申請を、4000件以上の不備を指摘された。経済産業省原子力安全・保安院、高野博女川町議の話。福島第一原発事故をめぐって、定期検査のやり方について、安全管理をどうすべきか、最も重要視している。

点検記録不備4188件 存在しない部位記載

東北電力は14日、東北電力女川原子力発電所1号機（宮城県女川町、石巻市）で9月下旬、外部電源が失われ非常用発電機が作動するトラブルが立て続けに2度発生したと発表した。

東北電によると、9月29日午後2時40分ごろ、外部電源を保護する装置の通電試験で、遮断器を接続する際に作業担当者が必要な手順を言いたため、別の遮断器が作動し停電。使用済み核燃料プールを冷やすポンプも一時停止し、非常用発電機で代替した。

30日午前1時半ごろ、非常用電源から復旧したが外部電源に切り替えることができず、現場への指示不徹底で再び外部電源が止まった。

電源が完全復旧したのは、最初の停電発生から約30時間後の30日午後8時50分ごろだった。プールの水分を減らした。

東北電の大平一樹原子力部課長は「2度も停電を起こしてしまい深く反省をしています。安全確保に万全を期していきたい」と語った。

女川原発でいま何が起きているのか

現地女川での活動を振り返って



風船プロジェクト 3回



「渡されたバトン」上映会



仙台 金曜行動に参加



松島 全国交流集会で学ぶ



金曜日 朝のあいさつ



最終処分場反対と連帯

全国や宮城の仲間と連帯し、女川原発再稼働を許さぬたたかいを、これからも続けます